

科目名	受験番号	
書学書道史	氏名	

I 「共通問題」次の①～②⑩の空欄を埋めなさい。

(3点×20＝60点)

A 後漢の(①)が著した(②)の序には、伝説上の人物である文字の創始者倉頡の名が見える。

B 後漢の建和二年(一四八)の作である(③)は、褒斜溪谷沿いの褒斜道の開通に尽力した司隸校尉らを頌えたもので、摩崖碑の一種である。同地域には開通褒斜道刻石や北魏時代の五〇九年には(④)も刻された。

C 蘇軾の作(⑤)は、晩年政治的に不遇であったことの心境を詠んだもの。蘇軾が文人官僚であったのに対し、同じく宋三大家の一人である(⑥)は、書画の専門家であり『書史』をはじめとした研究書を残している。

D 二〇世紀初頭、イギリスの(⑦)やスウェーデンのスヴェン・ヘディンらの発掘調査が進められるなか、日本の(⑧)探検隊も多くが発掘を行い、新発見が相次いだ。

E 揚州八怪の呼称は清末の光緒年間に出版された李玉棻の『甌鉢羅室書画過目録』が初出である。そこには(⑨)、(⑩)、羅聘、黄慎、李鱓、汪士慎、高翔、李方膺の名が記され、豊かな創造性で斬新な様式を創始した。

F 群馬県高崎市にある(⑪)は、和銅四年ころに建郡を記念して立てられたもので、金井澤碑、山上碑と併せて(⑫)と呼ばれる。

G (⑬)は、弘仁三年と翌年に執り行われた結縁灌頂の名簿の手控えで、(⑭)が揮毫したものである。先頭には、弟子の泰範に宛てた書状(⑮)(奈良国立博物館蔵)を書いた(⑯)の名が記されている。

H 尊円親王の父である(⑰)天皇は能書として知られ、自家集を書いた(⑱)などが現存している。また、草仮名の代表的な遺墨である伝小野道風筆(⑲)を愛蔵したことでも知られている。

I 西川春洞門下の(⑳)は、「楷書十年」の鍛錬主義の書家であり、東京府美術館における書道展の開催や、日展五科の設置、戦後の義務教育における書写の導入などにも尽力した。

II 「選択問題」次の①～⑩の事項から二つを選び、それぞれ一五〇字以内で知るところを述べなさい。

(20点×2＝40点)

- ① 狂草 ② 楚帛書 ③ 趙之謙 ④ 董作賓 ⑤ 趙孟頫
⑥ 和様 ⑦ 藤原行成 ⑧ 入木抄 ⑨ 平家納経 ⑩ 中林梧竹